

2022 年度八王子市保健所運営会議 議事概要

1. 日時 令和 5 年（2023 年）2 月 2 日（木） 午後 1 時 30 分～3 時

2. 開催方法 WEB 方式による開催

3. 参加者名簿

	氏名	所属・役職
1	岸田 功典	市議会議員
2	鈴木 基司	市議会議員
3	渡口 禎	市議会議員
4	若林 修	市議会議員
5	木田 彩	市議会議員
6	鳥羽 正浩	八王子市医師会 会長
7	竹内 将人	東京都八南歯科医師会 支部長
8	森田 二三江	八王子薬剤師会 理事
9	小川 真二	東京都獣医師会八王子支部 支部長
10	和城 美穂	東京都助産師会八南分会 会計
11	赤澤 将	八王子市社会福祉協議会 会長

4. 議事

- (1) 食環境整備事業の実施について
- (2) 公衆浴場等におけるレジオネラ症予防対策について
- (3) 自殺対策について
- (4) 令和 4 年度新型コロナウイルス感染症の対応について
- (5) その他

質疑応答

公衆浴場等におけるレジオネラ症予防対策について【資料2】

質問1	令和元年、2年、3年の施設数、検査数の違いについて教えてください。
回答1	令和2年度はコロナの影響で営業をしていない施設があります。数値は営業中の施設での検査数であり、公衆浴場の施設数は大幅には変わっていません。

自殺対策について【資料3】

質問2	八王子市では若年層の増加率が高いということですが、若年層の定義は40歳未満でよろしいでしょうか。
回答2	40代は若年層に入れておらず、対象は一番上で30代、下は10代です。最近では、10歳未満を含むかなり若い年齢層を想定して若年層とすべき層と考えられています。

質問3	年齢別はあったが、就業状況別の数字を把握していれば教えてください。例えば、学生なのか、無職者なのか、有職者なのか、若年層だけでよいので教えてください。
回答3	<p>職業については聞いていますが、現在のアンケート結果の中には反映されていません。元のデータを持っているので、分析することは可能です。</p> <p>ただ、今回18歳以上を対象とした中で年齢層別の人数をだいたい均等になるようにしましたが、一番知りたい10代については18歳以上のため18歳と19歳しかおらず、対象人数も少なくなっています。20代についても全体から見ると少し人数が少ないです。</p> <p>今後、若者の対策を進めていくにあたっては、学校やその他の実際のデータを利用するとともに、精神科の先生方からは精神科に入院された方の実際の患者さんの声を聞いたかどうかとご意見をいただいているので、今回のアンケートだけではなく、可能な限りより具体的な意見を追加したいと思っています。</p>

質問4	八王子市は特に自殺者が増加傾向にあることから、その対策としてキャンペーンなどを行っていると思います。八王子市保健所のこころの健康相談が本市としての相談の窓口となっていますが、増加している中で、昨年より相談件数がかかなり増えている傾向がうかがえるとか、一週間にどのくらい相談電話が入ってくるか、また、相談電話が入った後どのような対応をしているのか教えてください。
回答4	<p>こころの健康相談事業は、外部の精神科医に来ていただいています。若者相談が得意な先生、高齢者相談が得意な先生と対象別の精神科医の先生に来ていただいて、週1回相談に応じています。それ以外は、お電話いただければ、いつでも保健師が相談可能な体制を整えています。</p> <p>コロナの影響については、自殺を理由とする相談が増えているということではありませんが、令和2年度と3年度で実際の相談が増えているという現状はあります。</p> <p>傾向については、直接自殺に通じるのかどうかは難しいところですが、コロナを理由に生きづらさを感じている点が見受けられます。よく言われていることでは、在宅ワークが一般的になったことで、例えば女性、お母さん方はこれまでお子さんが学校に行っていた後は家</p>

	<p>で一人だったところ、お父さんがいるのでなかなか自分の時間がとれなくなっているというかなり深刻な悩みの相談があるなど、以前はなかった内容の相談が増えています。</p>
--	---------------------------------------------------------------------------------------

質問 5	<p>八王子市ではこころの健康相談、東京都ではLINEとそれぞれのやり方がありますが、電話をかけるという行為は今の若い世代の人からすると抵抗があるのではないかと考えています。LINEでのやり取りが相談しやすいという感覚をもっていますが、考えを伺います。</p>
回答 5	<p>LINEや市ホームページからのメール相談は、ここ数年、件数が非常に増えているという現状があります。ご指摘のとおり、対面はハードルが高い、電話することもハードルが高いと考えている人がいる状況だと思います。誰にも聞かれないところで電話することができないという状況は、お子さんについても同じで、コロナで自宅学習が中心になると一人になる時間がないので電話をかけられない、親や周りの人に聞かれないで電話する場所や時間がないという非常に差し迫った状況にあり、環境が整わないため電話もできない状況です。</p> <p>一方、教育委員会から聞いていることですが、教育委員会ではお子さんにタブレットを配っているので、そこから担任の先生や一般的な相談に繋がる可能性があります。また、友達同士のやり取りにおいて教育委員会では「危険ワード」というものを決めており、そこにひっかかるようなワードがやり取りの中で出てくると学校カウンセラーや副校長のところに連絡が入るなど、タブレットを配ったことで、自殺の問題やいじめだけではなく、様々な問題に対し、より個別に対応できるようになったと聞いています。</p> <p>ご指摘のとおり、LINEによる相談では、かなり夜中についても24時間以内に返答するようにしています。これまでよりもリアルな関係ではない、ネット上の空間での相談が増えているというのは、東京都内だけではなく全国的な傾向だと聞いています。</p> <p>また、次年度について、市独自にLINEでの相談を検討しましたが、残念ながら事業化できませんでした。今後、東京都と連携しながら進めていければと考えています。</p>

質問 6	<p>相談窓口の相談員は、専門的な研修を受けた方でしょうか。</p>
回答 6	<p>八王子市の電話相談については、全員保健師が対応しています。保健師の資格を持っていると同時に、ゲートキーパー研修を少なくとも初級、主に相談を受ける地域保健担当の保健師については、次のランクの専門研修も受講して相談に対応しています。</p> <p>なお、自殺関係の相談窓口はNPOや精神保健福祉士が立ち上げていることが多いですが、資格なく相談に応じているとは聞いておりません。様々なゲートキーパー研修があると同時に、研修では修了証を発行している場合が多いので、確認することができます。</p> <p>何も知識がない中で相談を受けることは、少なくとも把握している中では存在しておりませんし、そのようなことで問題が起きたという話も現在のところ聞いておりません。</p>